

魚津市公共施設等総合管理計画

個別施設計画

I 公共施設

E 社会教育・文化施設

3 博物館（全3館）

水族博物館

令和4年12月改訂

魚津市

(所管部署：水族館)

目 次

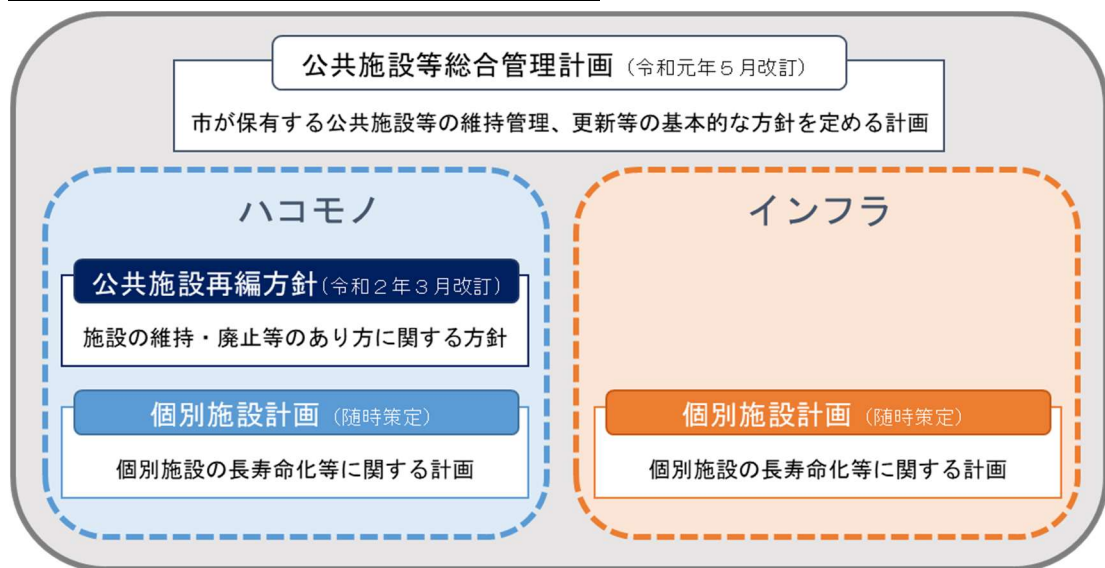
1	個別施設計画策定の趣旨及び概要	
1. 1	策定の趣旨	P 1
1. 2	対象施設	P 1
1. 3	計画期間	P 1
1. 4	進行管理	P 1
2	施設の状況	
2. 1	老朽化の状況及び改修状況	P 2
2. 2	位置図	P 3
2. 3	施設の利用状況及び収支の状況	P 4
3	個別施設の方針	
3. 1	施設の役割	P 5
3. 2	現状と課題	P 5
3. 3	今後の考え方	P 5
3. 4	対策内容と実施時期	P 7
3. 5	対策費用	P 7

1 個別施設計画策定の趣旨及び概要

1. 1 策定の趣旨

本計画は、魚津市公共施設等総合管理計画（令和元年5月改訂版。以下、「管理計画」という。）に基づき、施設類型ごとの具体的な方針や長寿命化計画などを示すものです。

魚津市における公共施設等総合管理の概念図



1. 2 対象施設

対象施設は、管理計画における「水族博物館」とします。

1. 3 計画期間

計画期間は、20年間とします。

1. 4 進行管理

本計画に基づく進捗確認を毎年度行い、達成状況や財政状況などを踏まえて対策内容と実施時期を見直すことにより、計画的な改修等に努めます。

2 施設の状況

2.1 老朽化の状況及び改修状況

No	施設名称		建設年度	経過年数	構造 / 階層	延床面積 (㎡)	敷地面積 (うち借地) (㎡)	資産老朽化比率	劣化状況	改修状況			
										耐震化改修	長寿命化改修		
											屋根	外壁	他
1	水族博物館	展示管理棟	S55	40	RC/3	3935.70	魚津市総合公園に含む	89.0%	施設・設備ともに劣化が著しい。	—	—	H8	—
		その他				178.38		/		—	—	—	—
	合計					4114.08		88.3%					

2. 2 位置図



2. 3 施設の利用状況及び収支の状況

No	施設名称	利用状況（人）			収支（千円）											
		H30	R1	R2	H30				R1				R2			
					収入	支出	収支差額	【参考】 減価償却費	収入	支出	収支差額	【参考】 減価償却費	収入	支出	収支差額	【参考】 減価償却費
1	水族博物館	152,815	157,300	99,026	78,887	183,764	▲ 104,877	20,301	77,145	180,284	▲ 103,139	17,281	67,335	196,297	▲ 128,962	17,281

3 個別施設の方針

3.1 施設の役割

1913年に創立し三代目の現在まで100年以上の歴史を誇る、日本では現存最古の水族館です。また、富山県で唯一の水族館でもあり、水生生物を常設展示しています。展示のみでなく、調査・研究や普及活動を行っており、令和元年度より県と連携して富山湾の深海生物について調査研究をしています。

3.2 現状と課題

施設・設備とも老朽化が著しく、修繕料は毎年増加しております。

旧耐震基準により整備された施設です。

車いす・ベビーカーの利用者が増えていますが、来館者用エレベーターはなく、職員が業務用エレベーターに随時誘導しています。

3.3 今後の考え方

①施設の方針（魚津市公共施設再編方針（令和元年改訂版）抜粋）

■博物館（全3館）

<再編方針（共通）>	目標年度：長期（R21）
○中・長期的に施設の再編を図り、魚津の地形や富山湾の特性を活かした3館の事業を連携しながら、引き続き維持していく。 ○整備や運営については、民間活力の活用を図る。	

■水族博物館

<再編方針>	目標年度：長期（R21）
○老朽化が進んでいるため、改修・改築、新築移転の検討を早急に進める。 ○管理運営費に見合った利用料金への見直しを行う。	

①対策の優先順位の考え方

耐震改修が必要かつ未実施の施設の対策を最優先で実施します。

基本的には、建築年度又は長寿命化改修実施年度からの経過年数が大きい施設から優先的に対策を実施するものとしますが、点検結果や施設の利用状況等の要因により実施時期が前後する場合があります。

また、市の財政状況を見ながら、対策に係る経費が平準化されるよう、計画的に対策を実施するものとします。

②保有総量の抑制について

社会情勢の変化をふまえ、サービス水準を出来る限り維持しながら公共施設の総量を抑制するため、施設の維持更新にあたり、機能集約や複合化を検討します。

③施設の長寿命化について

施設の長寿命化を図るため、事後保全的な維持管理から予防保全的な維持管理に転換します。

施設の目標使用年数を60年以上とし、施設の長寿命化改修は建築年度から20年及び40年を経過する年度から5年以内を目途に実施するものとします。

④社会的なニーズへの対応について

施設の長寿命化改修に併せ、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化、施設の脱炭素化等に係る改修を実施するものとします。

ただし、経費の平準化や社会的要請の高まり等の要因により個別に対応を実施する場合があります。

3. 4 対策内容と実施時期

No	施設名称	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23		
1	水族博物館	適切な維持管理・改修等を実施し、長寿命化を図る										⑤0	長寿命化により使用期間を延伸										★
		28	百万円（河川コーナー濾過材更新、市水揚水ポンプ更新、逆洗ポンプ外更新、零相電圧検出器更新）																				
		← 改修・改築、新築移転の検討										← 改修・改築、新築移転 →											

※ ⑤0は、減価償却資産の耐用年数（水族博物館（RC造）は、50年）を表しています。

※ 本計画は、適切な長寿命化改修を実施することにより、減価償却資産の耐用年数を超えて施設を利用することを目指すものですが、老朽化度調査等の結果を基に、長寿命化改修の実施有無や利用期間などが変更となる可能性があります。

※ 本計画における長寿命化改修や建替え等については、市の財政状況を見ながら、対策に係る経費が平準化されるよう、計画的に対策を実施するものとします。

3. 5 対策費用

計画期間における水族博物館の長寿命化等に係る概算費用は、全体で約20億円です。

併せて、改修・改築、新築移転の検討を早急に進め、その費用を見積もります。